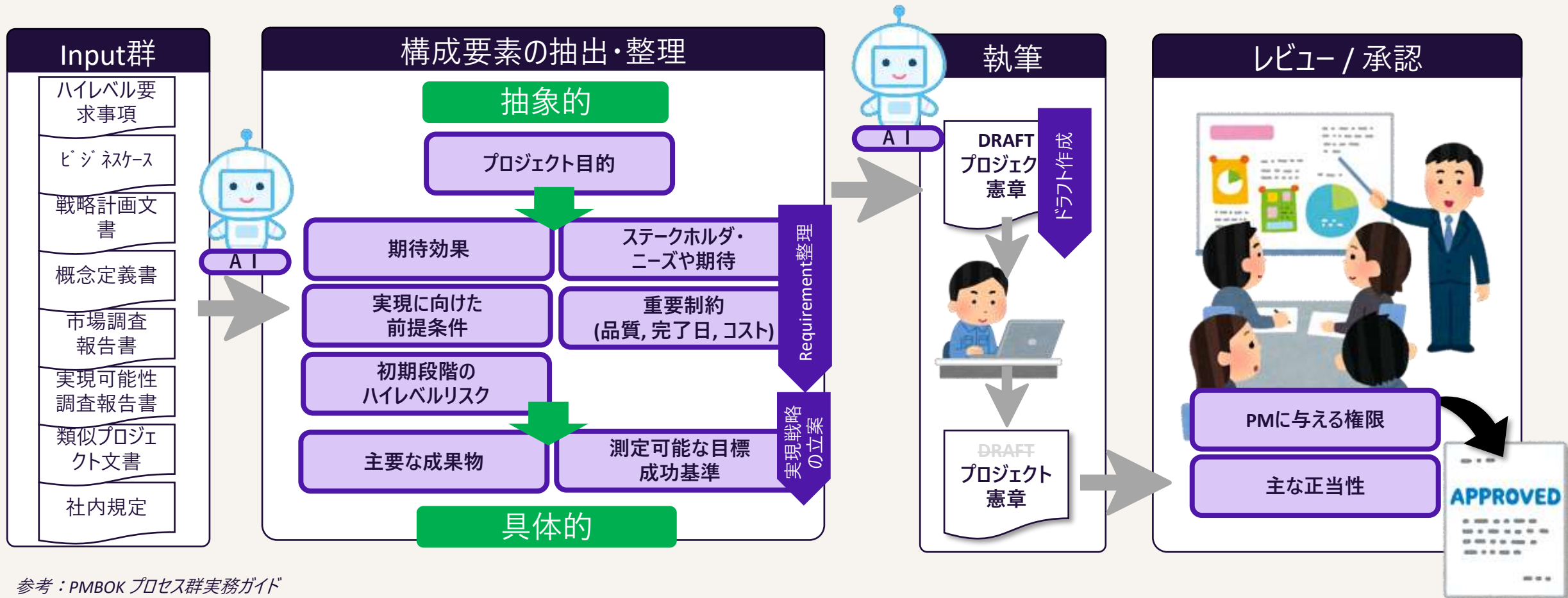


PMBOKのプロジェクト憲章フェーズでは、①INPUT情報を集める ②情報から憲章要素を抽出・整理する ③憲章を執筆する ④承認を受け正式文書として発行する。というプロセスで成果物を作成しますが、このプロセスの「②抽出・整理」「③憲章の執筆」を生成AIで実現するように整理していきます。





構成要素の抽出・整理

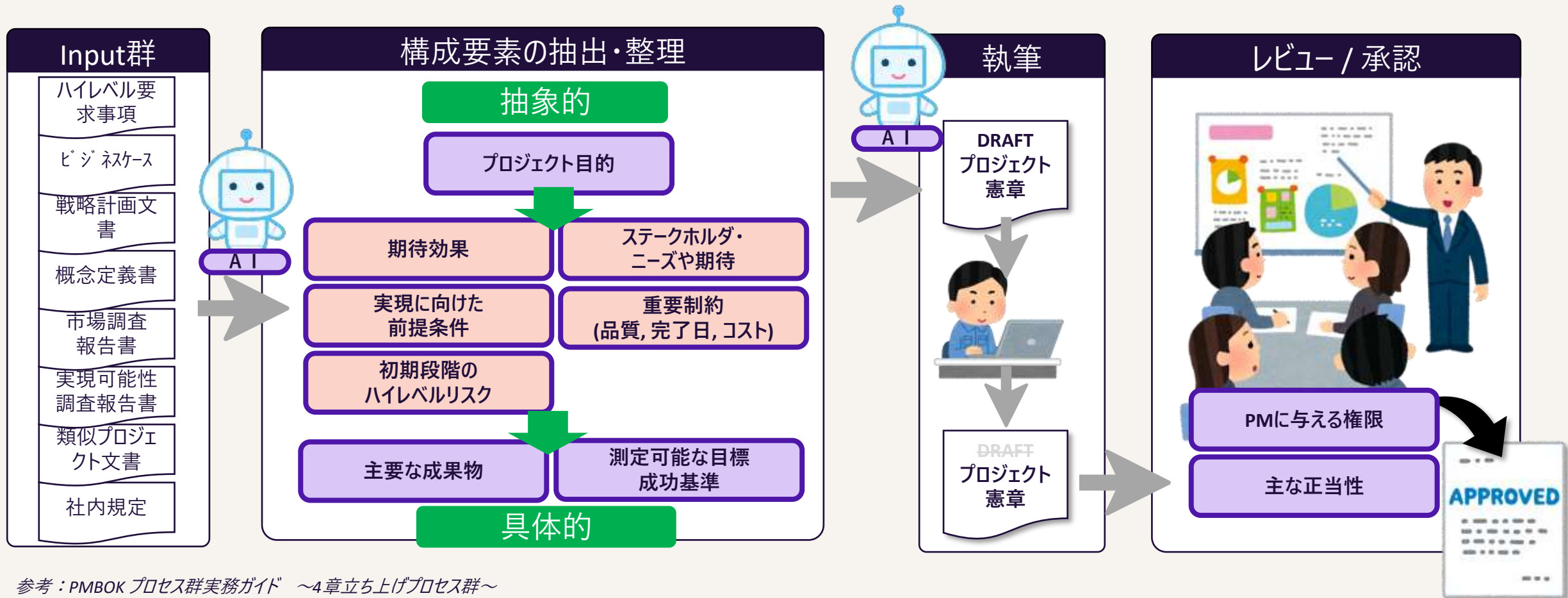
AI@Work 栞野、佐野、三五、一柳、富田



Requirement 整理

AI@Work 栞野、佐野、三五、一柳、富田

Requirementの整理は、目的ならびに目的達成活動に影響する、外部環境・内部環境に起因する「前提・制約条件」や「ニーズや期待」を明確にし、プロジェクトの目的を達成するに留意すべき「成果物」「ハイレベルリスク」のほか、成果物や役務のSPECのような「成功基準」を導き出すことが目的です。
世に認知度が高いPESTELやSQCDといったフレームに沿って整理することがコツで、この作業を生成AIで実現します。



事業要求・ToBe像といった目的・目標・前提条件を抽出し整理する

拘束条件となりがちなPESTEL条件を調査・整理する

事業要求・ToBe像から、SPEC要求を抽出し整理する

相反する要求の調整・意思決定を行う

プロジェクト・エンジニアとA I の役割分担

	主要プロセス	生成A I	プロジェクト・エンジニア
1	事業要求・ToBe像といった目的・目標・前提条件を抽出し整理する	様々な文章に分散した該当事項を収集・整理する	<ul style="list-style-type: none"> ・AIが必要な情報をそろえる ・生成AIが提示したSPECが要求に対して妥当性あるか判断（AIの幻覚回避） ・生成AIが提示した不足情報をステークホルダに確認し、要求を充当する
2	拘束条件となりがちなPESTEL条件を調査・整理する	構成している要素に対し、「公知ノウハウ（インターネット）」「非公知ノウハウ（イントラネット）」から選定し取り出す	<ul style="list-style-type: none"> ・生成AIへの指示、応答結果の妥当性判断（AIの幻覚回避）、取捨選択
3	事業要求・ToBe像から、SPEC要求を抽出し整理する	様々な文章に分散した該当事項を収集・整理する	<ul style="list-style-type: none"> ・生成AIが提示したSPECが要求に対して妥当性あるか判断（AIの幻覚回避） ・生成AIが提示した不足情報をステークホルダに確認し、要求を充当する
4	相反する要求の調整・意思決定を行う	出てきている要求事項や実行SPECが、相反する定義となっていないか	相反する内容について、ステークホルダ間の調整会議を開催し、情報を修正する

Point

- ✓ 具体的な帳票とプロンプトについては、別紙を参照してください。

Requirementの整理は、プロジェクトの目的ならびに目的達成活動に影響する、外部環境・内部環境に起因する「前提・制約条件」や、ニーズや期待といった「希望」を整理にすることで、「成果物（製品・サービス・PJ活動）」並びにそれらの成功基準や、留意すべき「ハイレベルリスク」を導き出すことが目的です。
世間で認知度が高いPESTELやSQCDといったフレームに沿って整理することがコツとなります。

立上計画Prompt1「Requirementを整理する」参照

収集

整理

次フェーズ処理

達成目的



ビジネスケース
概念定義書

戦略計画文書
ハイレベル要求事項



調査

Impute RAG

分類



AI

Requirement Structure

P ; 政治に関する条件・希望
E ; 環境に関する条件・希望
S ; 社会に関する条件・希望
T ; 技術に関する条件・希望
E ; 経済に関する条件・希望
L ; 法規に関する条件・希望

S ; 安全に関する条件・希望
Q ; 品質に関する条件・希望
C ; 金額に関する条件・希望
D ; 提供に関する条件・希望

要求 RAG

外部探索

市場調査報告書

実現可能性調査報告書

内部探索

類似プロジェクト文書

社内規定

外部 RAG

資産 RAG

PBS
(製品・サービス)

F-WBS
(達成活動)

Risk
(可能性)

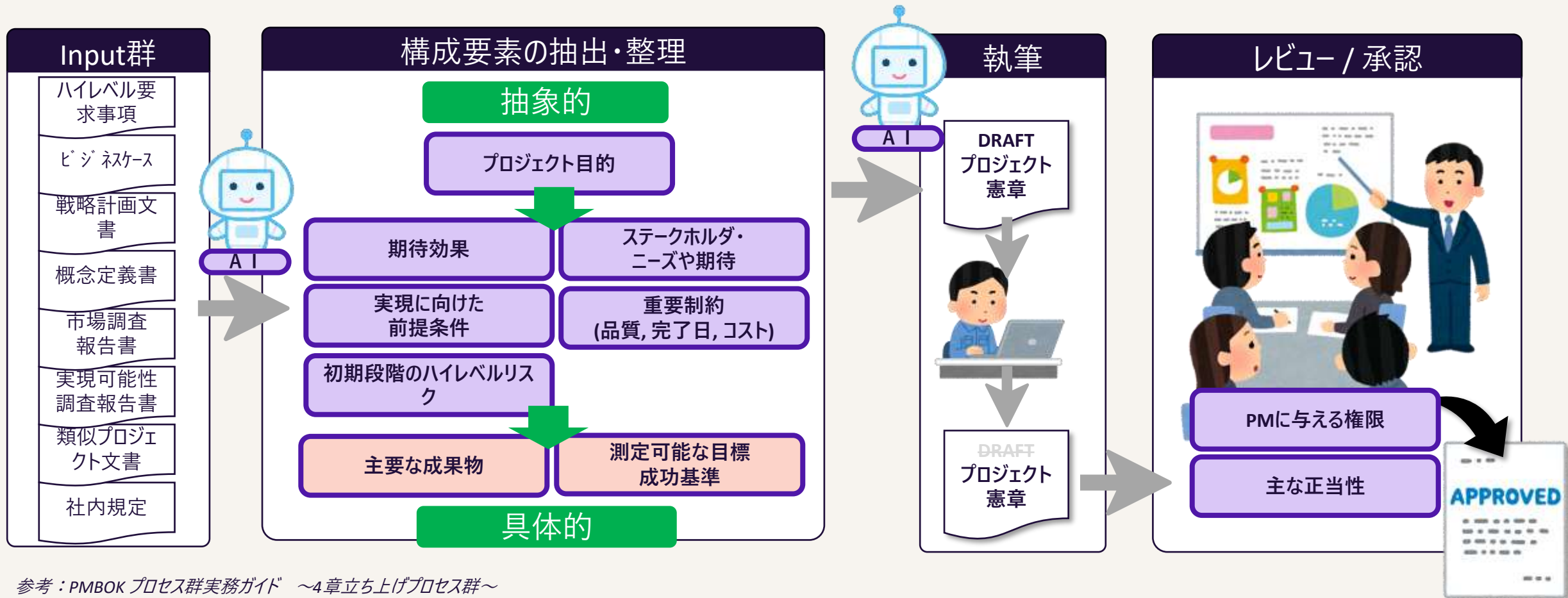


実現戦略の立案

AI@Work 栞野、佐野、三五

目的達成に必要な製品・サービス・PJ活動を明確にするとともに、Requirementを逆引きできるようにすることで「成功基準」を設定し、プロジェクトの目的を達成するに留意すべき「リスク」を導き出すことが目的です。

Requirementを実現するのに必要となるProduct（製品・サービス）を調査しながら抽出することがコツで、この作業を生成AIで実現します。その後、そのPBS個別要素ごとに、それを実現するのに必要なPJ活動（Function）を検討するのに生成AIを活用します。



Productの構成要素を導き出す

構成要素毎に、既知のノウハウを調べる

要求SPECを明確にする

相反する要求の調整・意思決定を行う

プロジェクト・エンジニアとA I の役割分担

	主要プロセス	生成A I	プロジェクト・エンジニア
1	Productの構成要素を導き出す	要求事項を元に、必要となる物理的構成や機能的構成を導き出す	プロジェクトの目的となる情報をもとに、実現に必要なものがそろっているか、妥当性を確認する
2	構成要素毎に、既知のノウハウを調べる	構成している要素に対し、「公知ノウハウ（インターネット）」「非公知ノウハウ（イントラネット）」から選定し取り出す	生成A Iへの指示、応答結果の妥当性判断（AIの幻覚回避）、取捨選択
3	要求SPECを明確にする	要求事項を引き当て、不足があれば不足点をPEに提示し、確認を則す	A Iが提示したSPECが要求に対して妥当性あるか判断（AIの幻覚回避） A Iが提示した不足情報をステークホルダに確認し、要求を充当する
4	相反する要求の調整・意思決定を行う	構成要素に対する要求事項や実行SPECが、相反する定義となっていないか	作成したプロジェクト文書および説明文書をもちいて、各ステークホルダへ説明
5			

Point

- ✓ PBSにおけるProductの構成要素は、業界や対象成果によりSub Product構成が異なります。
- ✓ 具体的な帳票とプロンプトについては、別紙を参照してください。

実現戦略の立案は、整理したRequirementをもとに、目的達成に必要となる「成果物構成（PBS；Product Breakdown Structure）」「活動構成（FWBS；Function-Work Breakdown Structure）」に対するSPEC（目的達成基準）を設定し、「発生しうるリスク」を洗い出すことが目的です。

立上計画Prompt4「PBSとFWBSにReqから達成基準を引き当てる」参照

整理

調査・抽出

次フェーズ処理（計画）

主要な成果物

測定可能な目標
成功基準

立上計画Prompt2「主要な成果物（PBS）を整理する」参照

PBS
（製品・サービス構成）

Productの
Q詳細化、CD明確化

条件・希望
L；環境に関する条件・希望
S；社会に関する条件・希望
T；技術に関する条件・希望
E；経済に関する条件・希望
L；法規に関する条件・希望

要求
RAG



AI

Functionの
QCD明確化

立上計画Prompt1
「Requirementを整理する」で
既出

Risk
（可能性）

Risk事象の
対処方案明確化

初期段階の
ハイレベルリスク



憲章の執筆

AI@Work *****

To be continued

～2026年度活動にご期待ください！！～



ドラフト作成

AI@Work *****

To be continued

～2026年度活動にご期待ください！！～

本資料および動画の著作権について

本資料および動画の著作権は、PMI日本支部に
帰属しています。

本資料および動画の一部または全部を著作権
者に無許可で複製、転載、公衆送信、口述、上
映、出版、頒布、貸与、編集するなどして使用する
ことは著作権法に反することとなります。